

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名

: 全鉄測定試薬 Fe-B

AT000040

会社名

: 株式会社東洋製作所

住所

: 千葉県柏市高田 1335

担当部署

: 柏工場 品質管理課

電話番号

: 04-7143-2003

FAX 番号

: 04-7143-0684

緊急連絡電話番号

: 上記担当部署

推奨用途及び使用上の制限

: 全鉄測定



2. 危険有害性の要約

G H S 分類

物理化学的危険性

: 金属腐食性物質 区分 1

健康に対する有害性

: 急性毒性（経口） 区分 4

皮膚腐食性/刺激性 区分 1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分 1

標的臓器/全身毒性（単回暴露） 区分 2 (呼吸器系)

標的臓器/全身毒性（反復暴露） 区分 2 (呼吸器系)

ラベル要素

:



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 金属腐食のおそれ。

飲み込むと有害。

重篤な皮膚の薬傷および損傷。

重篤な眼の損傷。

臓器の障害のおそれ。

長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ。

水生生物に非常に強い毒性。

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き

: 皮膚に触れないようにする。

安全対策

眼に入らないようにする。

保護手袋、保護眼鏡、顔面保護具を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

取扱い後は手、汚染か所を良く洗う。

取扱中は飲食、喫煙してはならない。

応急処置

: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。

皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

廃棄

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断手当てを受けること。
水で数分間注意深く洗うこと。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
口をすすぐこと。
無理に吐かせないこと。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
: 環境への放出を避けること。
内容物、容器を地方、国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

单一物質・混合物の区分
物質

: 化学物質

成分及び含有量 : アンモニア水 10%含有水溶液
化学式または構造式 : アンモニア水 NH₄OH
C A S 番号 : アンモニア水 (アンモニア水溶液) 1336-21-6
官報公示整理番号 : アンモニア水 (アンモニア水溶液) 化審法 1-314
(化審法・安衛法)

4. 応急措置

吸入した場合

: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

眼に入った場合

: 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断手当てを受けること。
水で数分間注意深く洗うこと。

飲み込んだ場合

: コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。

: 口をすすぐこと。
無理に吐かせないこと。

: 気分が悪いときは医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤
特有の危険有害性

: 周辺設備に適した消化剤を使用する。
: 火災によって刺激性、有毒および、または腐食性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

: 区域より退避させること。

: 霧状水により容器を冷却すること。

消防を行う者の保護

: 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

: 関係者以外は近づけない。
回収が終わるまで充分な換気を行う。
適切な保護具を着用する。
着火源を取除くとともに換気を行う。

環境に対する注意事項	: 上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。 下水、排水中に流してはならない。 アンモニアの蒸気はある条件下で引火性、爆発性である。 アンモニア溶液からアンモニアガスが発生するので気をつけること。
封じ込め及び浄化の方法・機材	: こぼれた液を希硫酸などの希酸で注意深く中和する。 残留分を多量の水で洗い流す。
二次災害の防止策	: 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。 漏出物を回収すること。 全ての発火源を取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- : 煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。
禁煙。
衣類、可燃物などから遠ざけること。
- : 排気、換気設備を設ける。
- : 皮膚に触れないようにする。
眼に入らないようにする。
- : 保護手袋、保護眼鏡、顔面保護具を着用すること。
指定された個人用保護具を使用すること。
取扱い後は手、汚染か所を良く洗う。
取扱中は飲食、喫煙してはならない。

保管

適切な保管条件

- : 換気の良い場所で保管すること。
容器を密閉しておくこと。
涼しいところに置き、日光から遮断すること。
施錠して保管すること。

避けるべき条件

- : 金属腐食のおそれがある。
金属容器に保管してはならない。
飲食物、動物用飼料から離して保管する。

容器包装材料

- : 他の容器に移し替えないこと。
耐腐食性、耐腐食性内張りのある容器に保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

- : 設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会

- : 25ppm、17mg/m³ (アンモニアとして)。

ACGIH TWA

- : 25ppm (アンモニアとして)。

ACGIH STEL

- : 35ppm (アンモニアとして)。

設備対策

- : 適切な換気のある場所で取扱う。
排気、換気設備を設ける。
洗眼設備を設ける。
手洗い、洗顔設備を設ける。

保護具

- 呼吸器の保護具 : 呼吸用保護具を着用すること。
- 手の保護具 : 保護手袋を着用する。
- 眼の保護具 : 側面シールド付安全メガネまたは化学品用ゴーグルを着用する。
- 衛生対策 : 眼、皮膚、衣類につけないこと。
取扱い後は汚染か所をよく洗うこと。
この製品を使用するときに飲食または喫煙をしないこと。
汚染された衣類再使用する場合には洗濯をすること。
取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状態、形状、色など : 無色の液体。
- 臭い : 刺激臭。
- pH : 強塩基性。
- 融点・凝固点 : -58°C (アンモニア 25%水溶液)。
- 沸点、初留点と沸騰範囲 : 38°C (アンモニア 25%水溶液)。
- 燃焼性 (固体、ガス) : アンモニアの蒸気はある条件下で引火性、爆発性である。
- 蒸気圧 : 48kPa (20°C) (アンモニア 25%水溶液)。
- 相対蒸気密度 (空気=1) : 0.6 to 1.2。
- 比重 (密度) : 0.9 (アンモニア 25%水溶液)。
- 溶解度 : 水に混和する。

10. 安定性及び反応性

- 安定性 : アンモニア溶液から、ある条件で引火性、爆発性のアンモニアガスを発生する。
- 危険有害反応可能性 : 蒸気は引火して爆発するおそれがある。
多くの重金属やその塩と反応し、爆発性化合物を生成する。
多くの金属を侵して引火性、爆発性気体（水素）を生じる。
強塩基性であり、酸と激しく反応する。
- 混触危険物質 : 酸、金属。
- 危険有害な分解生成物 : 窒素酸化物、水素、アンモニア。

11. 有害性情報

- 急性毒性 (経口) : 区分4。
以下データより、アンモニア水 (アンモニア 28%含有水溶液)として区分4であり、本製品のアンモニア含有量は10%であることから、本製品の推定急性経口毒性値 LD₅₀は、1000mg/kgと推定されるため、区分4とした。
[日本公表根拠データ]
RTECS(1997)のラットの LD₅₀=350mg/kg から、区分4とした。
アンモニア水溶液 (水酸化アンモニウム) はアンモニアの水溶液であるが、アンモニアの揮発性が高いため、アンモニアのGHS分類結果も参照のこと。
- 皮膚腐食性・刺激性 : 区分1。
以下データより、アンモニア水 (アンモニア 28%含有水溶液)として区分1A-1Cであり、本製品のアンモニア含有量は10%であることから、区分1とした。

[日本公表根拠データ]

SITTIG(4th, 2002)、DHP(13th, 2002)、ICSC(J)(1995)、EU-Annex I(Access on Jun. 2005)のヒトへの影響において腐食性が示されている。

細区分の指標となる動物の試験データが見つからなかったため、区分 1A-1C とした。

: 区分 1。

以下データより、アンモニア水（アンモニア 28%含有水溶液）として区分 1 であり、本製品のアンモニア含有量は 10%であることから、区分 1 とした。

[日本公表根拠データ]

RTECS(1997)およびHSDB(2003)のウサギの試験データ、SITTIG(4th, 2002)、DHP(13th, 2002)、ICSC(J)(1995)のヒトへの影響において腐食性が示されており、区分 1 とした。

: 分類できない。

: 区分 2。

以下データより、アンモニア水（アンモニア 28%含有水溶液）として区分 2 であり、本製品のアンモニア含有量は 10%であることから、区分 2 とした。

[日本公表根拠データ]

Priority2 文書の ICSC(J)(1995)にヒトへの短期ばく露の影響として「気道腐食性を示し、高濃度の蒸気を吸入すると喉頭水腫、肺炎等を起こす」との記述があり、区分 2（呼吸器系）とした。この他、Priority2 文書の SITTIG(4th, 2002)、DHP(13th, 2002)、RTECS(1997)にも吸入ばく露により肺水腫等を起こすとの記述がある。

: 区分 2。

以下データより、アンモニア水（アンモニア 28%含有水溶液）として区分 2 であり、本製品のアンモニア含有量は 10%であることから、区分 2 とした。

[日本公表根拠データ]

Priority2 文書の ICSC(J)(1995)にヒトへの反復ばく露の影響として「蒸気やエーロゾルに反復ばく露すると肺が冒される」との記述があり、区分 2（呼吸器系）とした。

Priority2 文書の SITTIG(4th, 2002)にも「低濃度の反復ばく露により慢性気管支炎を起こす」との記述がある。

: 分類できない。

1.2. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性

: 水生生物に非常に強い毒性。

長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性。

(急性)	: 区分2。 以下データより、アンモニア水（アンモニア 28%含有水溶液）として区分1であり、本製品のアンモニア含有量は10%であることから、区分2とした。 [日本公表根拠データ] 甲殻類（オオミジンコ）の48時間 LC ₅₀ =0.66mg/L (HSDB, 2004) から、区分1とした。
(慢性)	: 区分2。 以下データより、アンモニア水（アンモニア 28%含有水溶液）として区分1であり、本製品のアンモニア含有量は10%であることから、区分2とした。 [日本公表根拠データ] 急性毒性が区分1、水中での挙動および生物蓄積性が不明であるため、区分1とした。
水溶解度	: 混和する (ICSC, 1995)。
残留性/分解性	: データなし。
生体蓄積性	: データなし。
土壤中の移動性	: データなし。
オゾン層有害性	: データなし。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

: 環境への放出を避けること。
内容物、容器を地方、国の規則に従って廃棄すること。
廃棄の前に可能な限り無害化、安定化および中和などの処理を行なって危険有害性のレベルを低い状態にする。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。

: 容器は清掃して関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国連分類および国連番号

番号	: 2672
危険物分類	: 8
容器等級	: III
指針番号	: 154
特別規定番号	: A64;A803
特別の安全対策	: 食品、飼料と一緒に輸送してはならない。

1 5. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康、及び
環境に関する規則／法令
毒物及び劇物取締法

以下は、アンモニア水（アンモニア 28%含有水溶液）として
の情報。

: 劇物（令第2条）。
アンモニアを含有する製剤（10%<）。

労働安全衛生法	: 有機溶剤等に該当しない製品。 名称表示危険、有害物（令18条）。 アンモニア水。 名称通知危険、有害物（第57条の2、令第18条の2別表9）。 アンモニア水。 腐食性液体（規則第326条）。 アンモニア水。
化学物質管理促進（PRTR）法	: 該当しない。
消防法	: 該当しない。
化審法	: 該当しない。
悪臭防止法	: アンモニア水。
大気汚染防止法	: 指定物質（政令第10条）。 アンモニア水。
船舶安全法	: 腐食性物質 分類8。
航空法	: 腐食性物質 分類8。
水質汚濁防止法	: 有害物質。 アンモニア水。 法令番号 26 : C100mg-(40%のアンモニア性+亜硝酸性+硝酸性)窒素/liter。
適用法規情報	
海洋汚染防止法	: 個品運送P（施行規則第30条の2の3、国土交通省告示）。
海洋汚染防止法	: 有害液体物質(Y類物質)（施行令別表第1）（濃度が28重量%以下のものに限る）。
道路法	: 車両の通行の制限（施行令第19条の13、（独）日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2）。
労働基準法	: 疾病化学物質（法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1）。
輸出貿易管理令	: 別表第1の16の項に該当。

1.6. その他の情報

本データシートの記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険・有害等に関して、保証をするものではありません。

また、注意事項は、通常の取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いの場合は、用途・用法に適した安全対策を実施の上、安全性を確認してからご利用ください。